

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体理事長 半田晴久
交通部会長 松本治男
専務理事 清原淳平

交通部会のお知らせ (第280回)

日時 令和2年10月27日(火) 午後1時半～3時半
場所 参議院議員会館 地下1階 B108会議室
千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「B108会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、最近の交通情勢について想う
挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)
 - 2、道路交通法改正
 - 3、高速道路の120km/h規制の実施
 - 4、電動キックボード(産業競争力強化法)の関係
 - 5、交通事故統計分析
解説 警察庁交通企画課 西村仁崇課長補佐(警視)

報告 去る1月29日開催の第279回交通部会は、松本治男部会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「昨年の交通情勢を振り返り、本年に期待する交通事故対策」と題して開会挨拶がありました。第一次交通戦争と呼ばれ、史上最多の事故死者数だった昭和45年からの10年間で、死者数を半分に減らした。その後、交通量の増加によって再び1万人台となり、そこから少しずつ死者数を減らしていった。そして昨年は前年比9%減という大きな成果を挙げたことは感慨深いものがある。その要因は何か、を今回の議題を交通企画課長と相談している際に話し合った結果、

シートベルト着用の励行、自動ブレーキ、踏み間違い防止装置などの安全技術の普及と、認知症検査や免許返納などの高齢者対策の2つが大きいという結論になった。本年より一層事故死者数を減少させるには、信号のない横断歩道における歩行者対策が鍵になるのではないかと。

次に、警察庁交通局交通企画課西村仁崇課長補佐(警視)より、「令和元年の交通事故死者数」について、解説がありました。令和元年中の事故死者数は、3215人で、前年比9%の減少となった。高齢者の構成比は55.4%で、微減となった。16年連続で事故死者数1位だった愛知県が30人以上減らし、2位となった。一人当たりの死者数は東京、神奈川、大阪など交通の便の良い地域に集中している。

次に、「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令の一部を改正する命令案」について解説がありました。7、8月に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるに当たり、期間中、道路の規制標識、標示に大会関係車両専用通行帯と優先通行帯を新設する。また、歩行者「横断禁止」の標示を「わたるな」に変更することを検討している。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出された。◎長野県でなぜ信号のない横断歩道で歩行者が待っている時の一時停止励行率が高いのか、を調べたところ、ルーツは岐阜の郡上にあり、「緑のおばさん」が旗で車を止め、礼をしていた。それが小中高生に浸透し、「緑のおばさん」がいなくなっても自発的に学生が励行する風習ができ、それが長野にも広まったとのことだ。◎以前一時停止励行率が最下位だった三重では、県警が危機感を持ち取締を強化したとのことだ。◎自動運転システムには、まだ歩行者に渡る意志があるかどうかを見極めるのはむずかしいかもしれない。◎愛知県はトヨタのお膝元で車の台数も多く、ウィンカーを出さずに曲がる、車間距離をギリギリまで詰める、車線をコロコロ変えるなどの荒い運転も事故死者数の多さにつながっていた。

★資料代 会員500円
次回、10月27日(火)の交通部会(参議院B108)

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX

電話

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(非会員の会費は二千元となります。)

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp